

NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第30号・2009年 10月発行

北加日本語教師会 2009年秋の例会

堀淵清治氏 (President & CEO, VIZ Pictures, Inc.)

『NEW PEOPLE : アメリカにおけるJ-ポップ発信拠点』

Sunday, November 14, 2009 San Francisco State University



会長の挨拶

学習者の視点に立って考えてみよう
南 雅彦

北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様は、夏休みをどのようにお過ごしになりましたか。日本に帰省されて、これまで聞いたことのないような言語表現に遭遇し、とまどわれた方もいらっしゃるのではないかと思います。私は神戸大学大学院人文学研究科に新設されました日本語日本文化教育インスティテュートの『設立記念講演シリーズ第一弾』の講演者として依頼を受け『日本語学習者の語りのスタイルと習熟度—ナラティブ・トピックとの関係—』という演目で6月3日に講演をいたしました。このことは『日本語学』5月号や『月刊言語』6月号等の雑誌でも報告されています。その後、サンフランシスコに帰ってまいりましたが、夏は読書・執筆を中心とし、静かで有益な時間を過しました。

今semesterは、サンフランシスコ州立大学 (SFSU) の大学院で、認知意味論・語用論・言語地理学・方言地理学などの言語学諸分野と文化人類学や異文化心理学を含む『社会言語学セミナー』を担当し、また言語心理学・応用言語学・言語教育学などが中心の『第2言語習得セミナー』も教えております。セミナーを興味深く継続させるため、新しい言語表現を含め、社会言語学やそのほかの分野での新しい情報を入

手してゆくことが不可欠になります。ごく最近ですが、日本のテレビ放送をコンピューターで手軽に受信する方法を教えてください、そうした媒体が新しい情報源となっています。ご存じかとは思いますが、フジテレビ系列で『笑っていいとも!』というバラエティー番組があります。それに日本在住の外国人が日本語表現に関して質問するコーナーがあるのですが、たとえば、「物差しと定規は、どちらがうの?」や「刑事は、どうしてデカと言うの?」というような質問が寄せられていました。また、アメリカ人英語教師が「『先生はお腹をお立てになりました』と日本語で言ったら、同僚の日本人教師に笑われたけれど、どうして?」という質問もありました。これは「腹を立てる」のようにいったん表現が固定してしまい定型表現・常套句となると、そこに敬語表現を挿入できないという説明になります。このことは母語話者には感覚的・直感的にわかるのですが、外国語学習者には理解しがたいのかもしれない。

さて、春の活動のご報告をさせていただきます。5月3日、日曜日にはSFSUで春の例会を開催し『オタクUSA』という日本のポップカルチャーを専門とする雑誌の編集長を務められているパトリック・マシアス (Patrick Macias) 氏にお話しいただきました。例会では、NCJTAが非営利団体としてすでに認可されているということ、次のステップとして、非課税団体としての扱いが受けられるよう継続して申請中だということをお伝えしました。そして、この申請が6月初旬に認められたことを今回ご報告します。ただ、認可されましても、今後、決算期には煩雑な事務処理や手続きの仕事が引き続き発生してまいりますので、毎年、いつ何をすべきかを明確に、できればマニュアル化しておく必要があります。また、非課税団体となりまし

ても、州政府と連邦政府には活動報告を毎年提出する義務があり、それらにはおよそ \$ 400 の経費が必要になってきます。ですから、今後の非営利団体としての NCJTA の存続のためにも会員の皆様には年会費のご納入を切にお願いいたします。これは遡及的に未納の方にお願ひするものではございません。つまり、前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納分のお支払いをお願いする性質のものではありません。ぜひとも今年度分の年会費（一般 \$ 15、学生 \$ 5）からお支払いいただけますよう、お願ひ申し上げます。

NCJTA では、新しい広報活動として、*Foreign Language Association of Northern California*（略称 FLANC）のニュースレターにも日本語教育関連記事の掲載を昨年より積極的に行なっています。FLANC のニュースレター次号にも日本語関連の記事が掲載されるよう手配をしておりますのでご期待ください。今後ともこうした広報活動をさらに積極的に行なっておりますので、皆様、どうかご参加、ご出席、そして NCJTA ニュースレターばかりでなく、FLANC ニュースレターにも日本語教育関連の記事をご投稿いただけますようお願い申し上げます。

今秋もさまざまなイベントを通して、NCJTA のさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。昨年度から NCJTA も後援団体として参加していますが、北加日米会（*Japanese American Association of Northern California*：略称 JAANC）及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第 36 回日本語弁論大会が、11 月 1 日（日）に同総領事館広報文化センター

（*Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105*）において開催されます。今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に 10 月 9 日（金）午後 5 時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

11 月 14 日（土）には FLANC の年次発表会が SFSU で開催されます。今回も、朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも 1 件以上入っておりますので、日本語関係の発表をご堪能いただけます。この学会に関して、NCJTA の会員の皆様にはすばらしいお知らせがあります。NCJTA 会員の皆様は NCJTA のほうに前もって \$25 お支払いの上（payable to NCJTA です）事前登録していただきますと、FLANC のメンバーでなくても FLANC にも終日参加できるよ

うになりました。もちろん、FLANC のメンバーになっていただければ日本語教育ばかりでなく外国語教育全般への視野も広がるとは思います。この Newsletter に申込書を添付しますので、ご記入の上、\$ 25 をそえて会計の斉藤先生までお送りください。

また、従来通り、NCJTA 秋の例会は、午後 3 時から FLANC の午後のセッションの 1 つとして開催予定です。例会では去る 8 月 15 日に米国での J-Pop の発信地となる New People をジャパントウンにオープンされた viz pictures の堀淵清治氏にご講演をお願いしています。どうか御期待ください。また、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。

最後に、12 月 6 日（日）は習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が SFSU で実施されます。試験は全米 9 会場ありますが、サンフランシスコはロサンゼルスに次いで僅差で 2 番目の規模で、昨年は応募者数が 582 名、総受験者数が 485 名でした。このように大規模ですので、NCJTA の先生方には今年度も試験監督をお願い致したく存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。このように今秋もさまざまなイベントを通して、NCJTA のさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。どうかよろしくお願ひいたします。



2009 年 春の例会報告

2009 年 5 月 3 日（日）に、サンフランシスコ州立大学で、パトリック・マシアス（Patrick Macias）氏による講演『アメリカにおける J-ポップ：その過去と現在』が行われました。

マシアス氏は『オタク USA』という日本のポップカルチャーを専門とする雑誌の編集長を務められています。マシアス氏はライターであり、エディターであり、そして、なによりも日本のポップカルチャー大好き人間です。ちなみに、マシアス氏は NHK ワールド TV の特派員も務められ、オタクのための東京ガイド本『*Cruising the Anime City: An Otaku Guide to Neo-Tokyo*』や日本映画を紹介した『*Tokyoscope: The Japanese Cult Film Companion*』、さらには『オタク・イン・USA：愛と誤解の Anime 輸入史』の著者でもいらっしゃいます。『につばにあ』という季刊誌

（No. 46, 2008）にも登場されていますので、ご存知の方も多いかと存じます。今回、マシアス氏には『鉄腕アトム』のような初期のアニメから

『うずまきナルト』に至るまで、アメリカでのJ-ポップの発展のあらましについてお話いただきました。以下は、増山先生がまとめられた講演の要約です。

アメリカ人は、初期にはアニメが日本から来ているものとは気づかずにみているうちに魅了された。たとえば、『マッハGoGoGo』は、自動車レースをテーマとした子供向けのテレビアニメで、1967年に制作されたが、アメリカでは『Speed Racer』のタイトルで放送され、人気を博した。

『宇宙戦艦ヤマト』は、1974年にテレビ放送されたテレビアニメーションおよび、劇場用アニメーション映画があるが、アメリカに輸出され『Star Blazers』の題名でテレビ放映されている。このヤマトブームが日本でのおたくのはじまりで、1983年にはヤマトコン（コンベンション）がテキサスで開かれた。

1980年代に入ると、日本のおもちゃ（ロボット）がアメリカでブームとなる。日本では大人が漫画やアニメを崇拜しはじめ、宮崎事件でおたくに対し、世間が否定的な見方を始める。1980年代後半になると、アメリカでは『Star Trek』のコスプレがはやりだし、日本でもコスプレが始まり同人誌も盛んになる。1990年代に入ると『アキラ』などのサイエンス・フィクションがアメリカでブームとなる。『Ghost Shell』『ドラゴンボール』『ガンダム』が人気を博する中、『セーラームーン』など女の子にも人気のあるアニメが登場した。

1999年にはポケモンのゲームが栄え、日本のアニメやゲームは年齢層の低い子供にも影響を与え始めた。2005年の『電車男』は新たなおたくブームを引き起こした。最近では、アメリカン・ロリータなど、日本の文化を模倣しはじめる。さらに「モーニング娘。」など、日本のセレブリティや有名人をアメリカのアニメコンに招待しはじめた。

日本での漫画ブームはアメリカ人を驚かせ、また、アメリカ人も興味を持ちはじめ、

『少年ジャンプ』の英語版が作成された。現在、漫画などはWalmartやアメリカの本屋でも購入が可能である。漫画喫茶はパリやベルリンにも見られる。今後は、漫画アーティストの賃金や待遇を改善し今後の世代を育てていくことが、この分野の発展の課題となってくるだろう。

教育現場への応用に関しては、こうした日本のポピュラーカルチャーを授業や教材に取り込んでいってもいいが、多くのアメリカ人はインターネットなどを通してすでに学んでいるとのことでした。最後に、この要約をご報告いただいた増山先生には次号で日本のポピ

ュラー文化ということで短いエッセイか感想を含めたものを書いていただくことになっています。ご期待ください。（文責：南 雅彦）

2009年 秋の役員会議事録

日時：8月23日、日曜日、午後12時～3時

場所：4406 Dwinelle Hall, UC Berkeley

出席者：南 雅彦・増山和恵(記)・斉藤真由美・栗岡由布子・森岡妙子・神原若枝（以上、役員名簿順）
高橋久子（総領事館）

1. 総領事館より日本語弁論大会プログラムとJETプログラムの報告

日本語弁論大会プログラムは、11月1日（日）に、サンフランシスコ日本総領事館広告文化センターで開催予定。北加を後援名に加える事を承認。中高生の部の「家庭で日本語を話す（自己申告）」に関し、親からの署名も加えることになる。上位一位から三位まで賞品（図書券）及び賞状、四位から六位まで賞状のみ。採点方法について「何が公平なのか」という意見交換があった。JETプログラムへの今年の参加者は60数名と少なかったが、これは日本からのJET希望要請数が低かった為である。おそらく、景気が悪いためにJETを継続希望者が多かったからと考えられる。日本では小学校4年より英語の授業の導入により今後JETの必要性はますます高まると考えられる。

2. 秋の例会（FLANC）11月14日（土）

San Francisco State Universityにて11月14日（土）に開催される。FLANC会議の参加登録費は、会議事前に10名以上の登録があればFLANCのメンバーの有無にかかわらず、一人\$25となる（昨年より\$5増）。Pre-registrationは\$60（メンバー）\$65（非メンバー）である。当日の登録費用はウェブページに「On Site Conference Reg: Add \$20 On-Site Reg Fee to Pre Reg Fee」と書いてあるので、\$20の追加となる。例会のゲストスピーカーは、J-Popの発信地となるNew Peopleをジャパントウンにオープンされた堀淵清治氏にお願いすることにする。

3. 日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）

12月6日（日）に開催。ポスター、パンフレットの配布。年々受講者が増えているので、今年も、試験監督（作業力と責任感のある方）が必要である。30教室に2人ずつで監督してもらうと、約60名ほど必要。2010年より、レベルを現行試験の4段階（1級、2級、3級、4級）から5段階（N1、N2、N3、N4、N5）に増やされる。詳しくは
<http://www.jlpt.jp/j/about/pdf/guidebook1.pdf>

4. 確認：仕事の分担（役員会記録）

副会長が書記を兼任し、2009年度役員名簿の作成する。ニュースレター編集員に栗岡が就任。高校代表、学園代表が空席である。

5. 非営利団体の非課税の件

Edie Moriguchi 氏の助けにより、非課税の件が無事終了したと会長(南)より報告。

6. FLANC ニュースレター

次の日本語関連記事の候補は『言葉の窓』の英語版のいずれかを掲載。

7. 咸臨丸の150周年記念

総領事館の高橋氏より、咸臨丸の150周年記念ということで150周年にふさわしいイベント案があればぜひ連絡してほしいとのこと。



「言葉の窓」

日本語教育

JBBP-現ローザパークス小学校

田中 洋子

私の日本語教育は、日本語学園、ジャパニーズ バイリンガル バイカルチャル プログラム (JBBP-現ローザパークス小学校)、中学校、更に補習校をも含めて37年間にわたったが、その中でもJBBPの幼稚園児に教えたのが最も長かったので、そのことについて書こうと思う。

幼稚園 (K) レベルでは、日本語を教えるにしても年令的に幼児教育の一環としての授業という要素が必要であった。日本語とその文化に出会うのが初めてという児童から、親が日系人でわずかな単語を知り、日系の文化体験をもつ児童、親が日本人で家では日本語を主に話すか、英語も同時進行している児童 (バイリンガルに近い)、さらには、アメリカの生活が短く、日本語しか話さない児童というレベル差の子供達を一つ場所に集めての授業である。

日本語とその文化に出会ったことのない児童の中には、今まで見聞きしたことのないものにぶつかり (親の意志でプログラムに入れられ、自分では日本語学習をする等という意識は全くない) 抵抗を示すケースもあったが、言葉に関しては、本を読み聞かせたり、歌をうたったり、手遊びやゲームをするうちに自然にひきこまれてくるようであった。日本文化に対しては、今まで体験したことがなかったというだけで、面白く導入、展開していけば違和感などはなく、大ていの児童が興味をもって参加してきた。

そこで一番考慮しなければならなかったことは、極端に短い彼らの集中・持続時間を念頭においたカリキュラム、レッスンプランの作成ということ、そしてそれをいかに興味深く展開し活動に参加させるかの工夫と、そのための用意周到な準備 (この年令の子供たちは、自分で出来るが大変に限られている) である。

日本語を聞く、話す、読む (字を認識することが主)、書く (字をなぞる、うつす過程で書けるようになるのがねらい) などのアカデミックな学習も経験させるが、Kでまず大切なことは、人の話を聞く態度、物事に興味関心を持ち、課題に対して積極的に取り組もうとする態度、人と協力し合っけて集団生活を送ろうとする態度の育成ということ。これは、どの年令層でも必要なことであるが、特にKでは、初めて学校生活を送る基本的習慣として養わせたいと力を注いだところであった。

学年度初めなどは、決まった場所に少しも座っていられず、歩き回ったり、話を聞くかわりに自分のおしゃべりをやめられなかったり、隣り近所にいる子を巻き込んで遊んでしまったり、親から離れられず泣きわめいたり等々 (プリスクールなどの就学前集団生活体験のない子供もいる)、授業を始められる状態ではないところからのスタートである。

初めの1~2ヶ月くらいは、きちんと座る、話を聞く、話す時は手を挙げる等の習慣づけを中心にした日本語のアクティビティを展開し、それが出来るようになってきたら色々な領域の活動を広げていくようにした。それらは、言語活動、自然、音楽、絵画制作、健康 (体づくり)、社会 (社会性の育成) 等の分野であるが、科目として別々にするのではなく、殆どが相互に関連させながら統合されたアクティビティとなるようにした。

中でも子供が興味を示し、意欲的にとりくんだ活動は、年中行事の運動会、正月活動、学芸会はもとより、くり返しの面白さのある話の劇遊び、踊り、球根の水栽培やオタマジャクシの成長日記づけ (自然観察)、「はらぺこあおむし」を基にした自分のオリジナル絵本の作製とその発表、既習の言葉から選んで作る手製かるた、折り紙と描画を組んだアート、おにぎり作り、歌は日々限りなく楽しむのだが、語彙をふやすためのかえ歌とその動作化、日本語の各種ゲーム等々、一々今でも、それらに取り組む子供達の喜々とした顔や、キラキラした目がひとりでも思い浮かんでしまうほどである。

よく熱心な保護者 (日本語を話さない) から、家ではどんなサポートが出来るのか、という質問を受けたが、それには、日々の日本語の時間にどんなことをしたのか子供に尋ね、親も日本語に興味を持ち、共に習いたいという態度で接すること、子供が学校で覚えてきた言葉は、教えてほしいという姿勢で教えさせ、復習させること (この場合、子供の発音は抜群で、大ていの親はそれをうまく真似られず ok がでないらし

い)、そして、よく出来たらほめてやり、親も知らない日本語を学んでいることに得意意識を持たせることが出来たら良いのでは、と答えた。それを助けるために家庭には、五十音表を送り、毎週月曜日には一日一単語ずつ家の人と練習できるように一週間分の宿題を出すようにした。その結果は、家庭での取り組みいかんで差異が出たが。

保護者の意志で JBBP に入れられ、日本語を学習することが自分の意志ではなかった児童たちも、学年が進むにつれてどこかでしっかり取り組むことを覚え、5年生を終える頃にはそれなりに一定の基礎作りをして卒業していく。だがその後、中学、高校レベルで日本語学習のチャンスがなかったり、興味が持てず学習を続けなかったりというケースが少なからずあるようだが、大学に入って再びそのチャンスを得ると、かつて学習したことを土台にして懸命に取り組む者が多い。

JBBP 出身者には、ジェットプログラムを通して日本で仕事をしている者も多く、他は、国際関係のビジネス従事者、IT 関係者、弁護士、医師、看護師、教師、芸能関係分野等で活躍している者もあり、彼らがしっかり日本語を使って社会のために仕事をしているのを見聞きすると、その成長ぶりが何ともうれしい。彼らの弁は、異口同音にして、「小さい時から、日本語、日本文化を学習、体験してきたことが、自分のアイデンティティ確立、自分作りに大きく影響しているようだ。」「異文化体験をしたことは、物を見る目や心を大きく育ててくれ、広い見地から物を考えることができるようにしてくれたと思う。」と。

教育という仕事は、結果をすぐには出せないのだが、私のような細腕でも、彼らの人間作りに一役買うことが出来たと今、思いたい。



会計からのお知らせ

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2009 年度分の会費(2009 年 4 月から 2010 年 3 月まで有効)を年会費納入用紙といっしょに送ってくださるか、秋の例会でお支払いいただければと思います。会費を払われた方には、Kinokuniya Bookstore サンフランシスコ店のクーポン 15 ドル分(学生の方には 5 ドル分)を送らせていただきます。昨年までの会費を払っていらっしゃる方も今年のみ会の会費で結構です。皆様のご協力をお願いいたします。

NCJTA は 2007 年に非営利団体(non profit organization)になりました。それで、寄付を受けることができるようになりました。現在 Japan Society、Temple University、IACETravel から NCJTA のウェブサイトの広告一つ分 100 ドルの寄付をいただいています。皆様の中で広告

を出してくださりそうな方をご存知の方はぜひ齋藤までご連絡ください。(会計：齋藤 真由美)



ワークショップ・イベントのお知らせ

Foreign Language Association of Northern California (FLANC)

- 日時：11月14日(土)
- 場所：サンフランシスコ州立大学
College of Humanities

Registration	8:00 a.m. – 1:00 p.m.
Exhibits	8:00 a.m. – 3:00 p.m.
First Interest Session	9:00 a.m. – 9:45 a.m.
Opening Remarks, Keynote Address	9:55 a.m. – 10:15 a.m.
Second Interest Session	10:30 a.m. – 11:45 a.m.
Lunch (pre-reg, \$25)	11:45 a.m. – 12:45 p.m.
Third Interest Session	1:00 p.m. – 1:45 p.m.
Fourth Interest Session	2:00 p.m. – 2:45 p.m.
NCJTA Meeting	3:00 p.m. – 3:45 p.m.
Reception, Raffle, Silent Auction	3:45 p.m. – ...

- FLANC では、今回も朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも 1 件以上入っておりますので、日本語関係の発表をご堪能いただけます。午前のセッション 1 では Gyongnam Nam さんがひらがなとカタカナの Computer-Assisted Language Learning (CALL) プログラムについて、セッション 2 では安武和子さんが過去 40 年の J-Pop の歌詞の語彙変化について発表される予定です。そして、午後のセッション 3 では Matthew Hunter さんが日英翻訳に関して、最後にセッション 4 ではユニークな音声付き単語カードなど、興味深い方法を開発されてきた UC Davis の David Fahy さんが Audio Flash Cards について発表される予定です。
- NCJTA 会員の皆様は NCJTA のほうに前もって \$25 お支払いの上、事前登録していただきますと、FLANC にも終日参加できるようになりました (FLANC のメンバーか否かは問いません)。本 Newsletter に申込書を添付しますので、ご記入の上 \$25 を添えて会計の齋藤先生までお送りください (小切手の支払先名は FLANC ではなく、NCJTA でお願いします)。齋藤先生のご住所は以下の通りです。

Ms. Mayumi Saito 2105 Saratoga Place, Davis CA 95616

- NCJTA 秋の例会は、従来通り午後 3 時から

FLANC の午後のセッションの 1 つとして開催予定ですが、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、こちらにもどうかふるってご出席ください。NCJTA の例会では去る 8 月 15 日に米国での J-Pop の発信地となる New People をジャパントウンにオープンされた viz pictures の堀淵清治氏にご講演をお願いしています。どうか御期待ください。

第 36 回日本語弁論大会のお知らせ

北加日米会 (Japanese American Association of Northern California: 略称 JAANC) 及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第 36 回日本語弁論大会が、11 月 1 日 (日) に同総領事館広報文化センター (Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105) において開催されます。昨年度から NCJTA も後援団体として参加していますが、今年も昨年同様、午前中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。

中高生の参加資格は、①中高生で、②6 歳以後 12 ヶ月以上連続して日本に継続滞在経験のない人が対象です。入賞者には、賞状及び賞品が授与されます。なお、過去に 1 等賞に入賞した方には出場資格がありません。日本語を日常話している家庭からの参加者とそれ以外の参加者の 2 グループに分け、それぞれのグループでコンテストを行う予定です。大会では各学校の推薦 (学校の推薦枠は代表 1 名、補欠候補 1 名) による参加申し込みを受け付けます。中高生参加・出場申込書ご希望の方は、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター高橋さんにご連絡ください ☎(415) 356-2461, education@cgsjf.org (中高生出場申込書は同センターで受け付けます。)

大学・成人弁論大会の参加・出場資格は、①18 歳以上の米国市民権及び永住権保持者で、②大学生、または 18 歳以上、③6 歳以後、2 年以上連続して日本に継続滞在経験のない方が対象です。なお、過去に 1 等賞に入賞した方には出場資格がありません。1 位から 5 位の入賞者には賞金が、また上位 3 位入賞者にはトロフィーが授与されます。大学・成人部の参加・出場申込書ご希望の方は、北加日米会事務所 ☎(415) 921-1782 ファックス (415) 931-1826、または八木邦子さん ☎(209) 473-3488 までご連絡ください。

大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に 10 月 9 日 (金) 午後 5 時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に

日本語学習者がふるって参加されるようご推薦ください。(文責: 南 雅彦)

JET (Japan Exchange and Teaching) プログラム募集ご案内

2010 年度 JET プログラム (<http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/index.htm>) の募集を開始いたします。

応募書類に関しましては 10 月上旬頃に在米日本大使館のホームページよりダウンロードが可能となります。応募書類の締め切り日は **11 月 24 日厳守** となっております。詳細は同館ホームページをご覧ください。 www.us.emb-japan.go.jp/JET/

なお、在サンフランシスコ日本国総領事館及び当館管轄地域内の大学構内で行います募集説明会の日程リストは、当館のホームページに記載しておりますのでご覧ください。 www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/

JET プログラムに関します御質問等がございましたら、いつでも当館にご連絡下さいますようお願いいたします。Peter Weber: JET Program Coordinator (TEL: (415) 356-2462, Email: jet@cgsjf.org)

JET プログラムでは先生方より毎回ご協力を頂き心より感謝申し上げます。今後とも引き続きご支援頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) のお知らせ

国際交流基金 (Japan Foundation) では、日本語学習者を対象に日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) を 1984 年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでした。6 年前からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました。現在、試験会場はアトランタ、シカゴ、ファイエットヴィル (アーカンソー大学ファイエットヴィル校)、ホノルル、ロサンゼルス、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン DC の 9 ヶ所です。ベイエリアでは、12 月 6 日 (日) にサンフランシスコ州立大学 (SFSU) で今年度も引き続き日本語能力試験が実施されます。試験は、最も難易度の高いレベル 1 から最も難易度の低いレベル 4 まで 4 つのレベルに別れていますので、自分の能

方に適したレベルを受験することができます。各レベルとも、「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3つのセクションから成り立っています。受験費用はレベル1と2が50ドル、レベル3と4が40ドルとなっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルス/Japan Foundation, Language Centerまで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は

<http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=8>, <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=23>をごらんいただくか、電話(213)621-2267(月-金 9:30 a.m. - 5:30 p.m.)、もしくはE-mail: noryoku@jflalc.orgまでご連絡ください。本年度はすでに締め切りましたが、受験願書の受付期間は8月3日から9月25日までとなっていました。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。また、サンフランシスコは2番目の規模で、昨年は約582名が応募、485名が受験しました。このように年々大規模になりますと、NCJTAの先生方に試験監督をお願いする必要がありますので、よろしく願い申し上げます。

(サンフランシスコ州立大学 南 雅彦)



先生の紹介欄

ワーツ富士子先生のご紹介

- 1) お名前を教えてください。
ワーツ富士子です。
- 2) 教えている学校名、町を教えてください。
De Anza College, Cupertino と West Valley College, Saratoga です。
- 3) 日本語教師はいつから？
2006年からです。
- 4) ご趣味は？
ダンス、テニス、ハイキング、読書、旅行などです。
- 5) 日本の出身地は？
大阪府です。
- 6) アメリカに来てから何年ですか？
13年になります。
- 7) 仕事について、なにか一言お願いします。
何年か前に、ある先生が「これが正しい、という教え方はない。」とおっしゃっていたのを時々思い出すことがあります。実際に現場に出て、人種的、文化的、社会的、経済的背景の違いが著しく、さまざまな年齢層(15歳~70歳ぐらい)の学生が集まるコミュニティカレッジで、教えていて感じることは、一つの教授法にこだわることなく、

学生の求めているものに、ある程度、柔軟に対応していく必要もあるかもしれない、ということです。それと同時に、クラスマネージメントを通して、一貫性と臨機応変性のバランスの難しさも感じております。それはさておき、仕事はとても楽しく、毎学期、毎日が新鮮で、自分の好きなことを仕事にしていることは、幸せだと思っております。

- 8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。
NCJTAの役員の先生方、いつもお世話になっております。
お世話になった先生方、お陰様で私は元気でがんばっております。
まだ、お会いしたことがない先生方、いつかお目にかかれる日を楽しみにしております。

編集後記

新年度、秋学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお越しの事と存じます。これまで2年間ニュースレター編集を担当していただいた高坂聖子先生は今年4月にご出産され、編集委員を退任されました。これまでニュースレター編集にご尽力頂き、ありがとうございました。今回のニュースレターには新メンバーとして栗岡先生も加わり、より一層、日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げます。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、神原、栗岡、今瀬までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu
神原：wkambara@berkeley.edu
栗岡：kuriokayufuko@hotmail.com
今瀬：hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451
<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO : Masahiko Minami 南 雅彦
(同上)

副会長 : Kazue Masuyama 増山 和恵
University of California, Sacramento
E-mail: kmasuyama@csus.edu

会計 : Mayumi Saito 斎藤 真由美
University of California, Davis
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員 :
Yufuko Kurioka 栗岡 由布子
Institute of Buddhist Studies
E-mail:kuriokayufuko@hotmail.com

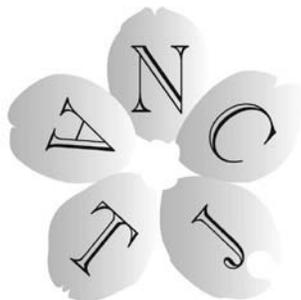
<各レベル代表>

小学校 :
Taeko Morioka 森岡 妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

中学校 :
Hiroshi Imase 今瀬 博
Odyssey School
E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表 :
Tazumi Searce シアース 多都美
469 Tovar Drive, San Jose, CA 95123
E-mail:tazumi@comcast.net

大学代表 :
Wakae Kambara 神原 若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association